

より良く生きる。―出居清太郎先生の世界― 第24回

山本博也

(1) 言わないんじゃない、言えないんだ

Tさんは、「ハイ」と素直に返事をする
ことができませんでした。ある時、菊の
夫人から、「Tさんは、ハイと言わないね」
と注意されました。するとそばにいた先
生が、「Tさんは、ハイと言わないんじゃない
んだよ。言えないんだよ。子供のとき
に、親の愛情が薄かったからね。無い
袖は振れないというだろ。」とおっしゃい
ました。Tさんはそれを聞いて、気持ち

が楽になるとともに自分の魂がわかった
ような気がしました。そして、だから先
生は私に、親のようによくしてくださいさ
るんだと納得したのでした。

(出居清太郎先生の言葉から)

「ハイ」という言葉は短い単純な言葉で、
声に出すことは簡単なことです。しかし、
「Tさん、水を持ってきてください…」
「Tさん、トイレを掃除してください…」
「Tさん、明日はいつもより1時間早く
来てください…」――と言われたような時
に、「ハイ」と素直に言おうと思っ
ているのに、いざその場になると、「ハイ」の言

葉が出ない、ということでしょうか。

そのように、こうしようと思っ
てにできない、これはしないと決
めたのについてしてしまうという
ことがあるということです。そし
てそれは単にその人の意志の弱
さや勇気の無さというのではな
い、より根本的な要因や深い事
情があるということだと思います。

失敗や悪事を誰かがおかし
たときに、その人自身でもどう
することもできない、気の毒な
事情があるのでないかと思
い、やってあげられたとき、私
たちの心は広いあたたかい心
になっていないのではないかと
思います。

かつてKさんからうかがった
話です。

Kさんは青年のころ、病気に
なつて悩ん



イラスト 大西 恵

でいました。なんでこんな病
気になつたんだろう、自分
は何も悪いことはして
ないのに、真面目にちゃん
とやっているのに、と。す
ると先生は、「あなたの病
気は九割はあなたのご先
祖のせいです」とおっしゃ
った。それでK青年は安
心したということでした。
私はKさんにたずねまし
た。「そう言われて、ご
先祖を恨む気持ちにな
りませんか?」「そんな
気持ちは起きなかつた」と
いうことでした。

K青年は、先生の言葉で、自分はこれでいいんだと安心し、生きていく元気が得られたのでしよう。それこそがK青年にとっての大いなる救いだったといえるでしょう。

この頃、誰かの欠点や失敗を見つけたら、すぐに、激しくその人を攻撃するという風潮があるように見えます。これでは、人と人との交わりの楽しさ、社会の温もりがそこなわれてしまいます。

家庭でも、たとえば親が、子供の失敗や未熟さに対して、子供を強く圧迫するような言葉を出すことがあるようです。それはしつけというより、親の見栄であることが多いと思われまます。親は、子供の人格を尊重して、責めるのではなく、

あたたかく見守っていくことが子供の成長にとって最も大事なことはないでしょうか。

(2) 足りないものを足してあげる

——先生が会員を指導されている姿を傍で拝見しておりますと、ほとんどの人に、まずあたたかく抱きかかえるような態度を取られますね。不満を反省せよ、などとおっしゃらない。

先生 はじめからそれを言っではいけない。押し付けになる。押さえつけることになってしまふ。まずこちらから感謝の言葉を差し上げる。感謝の心が足りないから不満が出てきているのでしょ。それですから感謝の心を足してあげるのが理でしょ。

こちらに感謝の心なしで、お前感謝せ
いと言ったって、相手が感謝できるわけ
がない。そう初めから叱ったらよけい不
満の種になり、逆になってしまふ。です
から足りないものを差し上げるのです。
高い心の人だったら、こちらが低い気持
ちになって接する。冷たい心の人だつた
らあたたかい言葉、というようにね。

(出居清太郎先生の言葉から)

人の欠点や失敗を見つけたら、そのこ
とを批判するのではなく、その人の足り
ないところを足してあげなさいと先生は
おっしゃいます。

すごいことをおっしゃるなあと思いま
す。ふつうは批判するのが当たり前で、
そうでなければ、しようがない人だと見

放してしまうでしょう。ところが先生は、
批判するのではなく、かといって見放す
のでもなく、足りないものを足してあげ
ようというのです。

お言葉(1)のTさんに対する先生の
態度がまさにそれでした。素直に「ハイ」
と言えないからといってTさんを責める
のではなく、「無い袖は振れないんだから」
とやさしくかばい、Tさんが十分に受け
られなかった親の愛を、親にかわって与
えられています。

「その人の足りないものを足してあげる」
という指針は、私たちがより良く生きる
ための指針としてたいへん有用なもので
はないでしょうか。

発行所 〒170-0011 東京都豊島区池袋本町3-11-1
修養団捧誠会 <https://www.hoseikai.or.jp>